

MYP の取り組み その 10 多様な活動を通して身に付ける ATL スキル

An Approach to MYP Part 10: Approaches to Learning (ATL) Skills Acquired Through Various Activities

外国語科

秋森久美子 雨宮真一 後藤 葵 小林万純 小松万姫 澤田光穂子
徳 初美 前田健士 佐藤典幸 中村邦彦 永井智大 浜口加奈

はじめに

外国語科では 2014 年度より、「育成すべき/したい資質・能力と観点別評価に基づいた多様な探究型授業」をテーマに

- (1) 評価規準に即した評価課題や学習活動の検討
- (2) コミュニケーション態度の育成
- (3) 英語運用能力の育成

の 3 つの課題について重点的に研究を進めてきた。

2015・2016 年度は、国際バカロレア中等教育プログラムにおける育てたい学習者像の中から特に「Communicators (コミュニケーションができる人)」の資質・能力に注目し、よりよい Communicators であるために求められる資質と英語運用能力について共通理解をはかり、目標、評価、指導の一体型の授業のあるべき姿を検討した。

2017 年 11 月 24 日に行われた平成 29 (2017) 年度 TGUISS 授業研究会では、学校として各教科で育成すべき資質・能力を以下の 3 つの要素を基に視覚化したものを発表しており、図 I はそれを外国語科 (英語) として示したものである。

- ・本校で使用している評価規準
- ・ATL(Approaches to learning)→IB の示す「学習の方法」のスキル
- ・次期学習指導要領における資質・能力の 3 つの柱
(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性)

これらの育成すべき資質・能力をどのようにして育成していくかを示すものを本校では「学びの地図」と称してその作成に着手した。外国語科では、2 つ目の要素、ATL スキルに焦点を当て、英語運用能力の育成と併せて昨年度からさらに研究を進めてきた。

2018 年 6 月 23 日に行われた第 6 回公開研究会においては「多様な外国語活動を通して身に付ける学習スキル」の中の「批判的思考スキル」及び、「転移スキル」の育成に着目した授業実践の一端を紹介し、その後の分科会では公開した授業に関して研究会参加者と活発な意見交換、情報交換を行った。

本稿では、同公開研究会の資料の一部と本校生徒対象 (2 年生～6 年生) に行った英語学習に関するアンケート結果を資料として紹介する。

1. 外国語科の目指す資質・能力の育成

(1) 外国語科の評価規準に基づく学習活動

ATL		規準 A	規準 B	規準 C	規準 D		
		リスニング	リーディング	コミュニケーション	言語の使用		
コミュニケーション	コミュニケーションスキル	聞く・観る・読むことによる解釈		ディスカッション プレゼンテーション インタビュー ディベート インプロンプト・スピーチ プリペARED・スピーチ スキット エッセー レビュー	ピア・レビュー		
社会性	協働スキル	ピア・リスニング	ピア・リーディング		ノート・ジャーナル・エッセー・レポート ブルーフリーディング・クリエティブライティング	文法・単語・発音	
自己管理	整理整頓する力	メモ・ノート取り	サマリー	精読			文法・単語・発音
	情動スキル						
	振り返りスキル						
リサーチ	情報リテラシースキル	ニュース・映画・番組 解釈・分析	データアナリシス	クリティカルリーディング	文法・単語・発音		
	メディアリテラシースキル						
思考	批判的思考スキル					詩・小説の読解	
	創造的思考スキル						
	転移スキル						

※資質・能力の3つの柱の色分け

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
-------	-------------	-------------

【図1】 外国語科の評価規準に基づく学習活動

<参考：ATLスキル>

1. コミュニケーションスキル：相互作用を通して思考やメッセージ、情報を効果的にやりとりする。情報を集め、やりとりするために、言語を読み、書き、そして用いる。
2. 協働スキル：他者とともに効果的に取り組む。
3. 整理整頓する力：時間と課題を効果的に管理する。
4. 情動スキル：心理状態の管理。
5. 振り返りスキル：学習プロセスを(再)検討する、ATLスキルを選択し用いる。
6. 情報リテラシースキル：情報を見つけ、解釈し、判断し、創造する。
7. メディアリテラシースキル：考えや情報を用い、創造するためにメディアと付き合う。
8. 批判的思考スキル：論点や考えを分析し、評価する。
9. 創造的思考スキル：今までにないアイデアを生み出し、新しいものの見方を検討する。
10. 転移スキル：スキルと知識を多角的な文脈において用いる。

(2) 外国語科の学習内容・活動実践例

本校の外国語科の授業では、「教員が伝達する知識・技能」―「生徒が体験する学習活動」―「評価課題」の3つを日頃からリンクさせ、様々なスキルの獲得を目指した活動を日々行っている。教科書や授業で扱われたテーマを元に、生徒自身がディスカッションやプレゼンテーション、インプロンプト(即興)スピーチ、ライティングなどの多様な学習活動を繰り返し段階的に体験しながら、スキルを「自分のもの」として獲得できることを目指している。また、活動を通じて習得したスキルは、多様な評価課題によって、評価される。生徒へそれらをフィードバックすることは、生徒自身に振り返りを促し、自分の目指すスキルを習得するために必要なことに気づかせる良い機会となっている。教員はファシリテーターやアドバイザー、デベロッパーとして、生徒が新しい知識やスキルを獲得していけるよう、学習活動を支援している。

前述の【図1】に示した学習活動の多くは1～6年の全ての学年で実施されているが、以下にその活動の一部を目指すATL育成の授業実践例【表1】として示す。なお、本校では約1年以上英語圏で英語を学習してきた経験のある生徒をAdvancedクラス(1～4年)、それ以外の生徒をCoreクラス(1～4年)、Basicクラス(4年)とし、クラスごとに授業を行っている。

【表1】外国語科の学習内容・活動実践例

キーワード	ATL				学年・科目	学習内容・活動
ノート取り	コミ	協働	整理		1年 Advanced	効果的なノートの取り方について様々な方法を論じた文献を読み、自分に最も合っていると思う方法を実践する。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		
クリティカル リーディング	コミ	協働	整理		1年 Advanced	広告を分析し、その背景や目的について考える。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		
ディスカッ ション	コミ	協働	整理		1年 Advanced	毎回の授業の始めに前回の授業で学んだことやその目的をペアで振り返る。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		
ディスカッ ション	コミ	協働	整理		1～3年 Advanced	小説を読み、その内容についてグループやクラスでディスカッションを行う。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		
聞くこと による解釈	コミ	協働	整理		1年 Core	テレビ広告を視聴、理解し、内容や制作の意図などを批判的に考察する。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		
ディスカッ ション	コミ	協働	整理		1年 Core	テーマごとにAとBどちらのほうが良いと思うか、理由とともに意見を述べて話し合う。
	情動	振返	情報			
	対峙	批判	創造	転移		

インプロンプトスピーチ	コミュ	協働	整理	1年 Core	与えられたトピックについて即興でパートナーと会話し、話題を広げる。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
ピアレビュー	コミュ	協働	整理	1年 Core	録音した会話やスピーチをペアで聞きあい、内容、言語について振り返り、次回からの発信に生かす。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
文法・単語・発音	コミュ	協働	整理	1年 Core	文法問題集や授業中のハンドアウトを中心として、基礎的な語彙・文法を習得し、発信活動に生かす。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
ニュース・映画・番組解釈・分析	コミュ	協働	整理	2年 Advanced	言語が変化していくことに関して論じたTED Talkを見て、その内容や構成を解釈する。また、映像の内容について分析したり、自身の考えを発したりする。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
インプロンプトスピーチ	コミュ	協働	整理	2年 Advanced	毎回の授業の始めに、与えられたトピックに従って2分間の即興スピーチを行い、お互いにアドバイスをする。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
メディアリテラシー・プレゼン	コミュ	協働	整理	2年 Advanced	小説の内容と映画を比較する。何に注目して比較するかを話し合い、その結果をプレゼンする。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
インプロンプト・スピーチ(ペア)	コミュ	協働	整理	2年 Core	少数言語について各自が情報を調べ、まとめた内容を踏まえてペアで話し合いを行う。最終的には教員とのインタビューで学習の成果を評価する。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
小説の読解	コミュ	協働	整理	2年 Core	小説 (retold) を読んで、大筋、詳細の内容について理解する。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
サマリー	コミュ	協働	整理	2年 Core	ニュース記事を読み、5W1H 情報を中心として自分の言葉で要約を述べる。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
メモ・ノート取り	コミュ	協働	整理	2年 Core	読んだ小説やノンフィクションのストーリーを章ごとに、わかりやすく絵やメモで読書記録をつける。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
ディスカッション	コミュ	協働	整理	2年 Core	ノンフィクションストーリーを読み、自分の考え、意見をグループで話し合い、グループとしての意見をまとめる。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		

ジャーナル	コミュ	協働	整理	2年 Core	日々の出来事について5W1H情報を基本とした記録を日常的につける。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
インプロンプトスピーチ	コミュ	協働	整理	2年 Core	写真から物語を想起し、即興で起承転結の整ったスピーチを行う。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
文法・単語・発音	コミュ	協働	整理	2年 Core	文法問題集や授業中のハンドアウトを中心として、基礎的な語彙・文法を習得し、発信活動に生かす。発音記号を学習し、辞書から正しい発音を導き出す。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
スキット・クリエイティブライティング・スキットの解釈・分析	コミュ	協働	整理	3年 Advanced	レッスンに関する事例を物語調にしたものを各グループに提示し、その続きを考えさせ、グループで演じさせる。スキット後、全体でどのようなことが問題であったか、どのような解決策を取ったのか、もっと良い解決策が考えられるかなどを検討する。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
エッセー	コミュ	協働	整理	3年 Advanced	各レッスンのテーマ、もしくは身近なテーマを題材とし、限られた時間の中で問われている内容を全て把握し、理由や例などを明確に論じながら自分自身の意見を記述する。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
ピアレビュー	コミュ	協働	整理	3年 Core	各自が書いたパラグラフのワークシートを交換し、構成や内容をグループでお互いに評価・コメントを書き込み、口頭でも伝える。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
文法・単語・発音	コミュ	協働	整理	3年 Core	各レッスンで出てくる文法事項、語彙の使い方を学んだ後でそれらを含む英文を読み、それらを使ってパラグラフを書く。また、定着させるために注意深く復習をする。声に出して読む、話す、といった活動では発音も学ぶ。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
ディスカッション・インタビュー	コミュ	協働	整理	3年 Core	各レッスンの内容に関するディスカッションを行う。そこでは振り返りスキル、思考スキル、転移スキル、協働スキルなど総合的に使って決まった答えのない内容について意見を出し合い、発表をする。また、レッスンの内容に関するインタビューは、さらにインタビューアの意図を読み取りながら創意工夫して答える。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		
小説執筆	コミュ	協働	整理	4年 Advanced	物語の構造や語りの技法を学んだうえで小説分析、小説執筆を行う。
	情動	振返	情報		
	対イ	批判	創造		

ノート取り	コミュ	協働	整理	4年 Basic	英文を読んだり聞いたりしながら重要だと思われる情報や内容を書き取り、自分で取ったノートを使って内容把握や解釈の問題を解く。なお、答えを発表する際には、根拠を説明する場合があるので、ノートを取る際には、その点も想定しつつ取り組む。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
読むことによる解釈・クリティカルリーディング	コミュ	協働	整理	4年 Basic	英文を読み、内容把握・解釈をする。その際、批判的思考力を養うために、客観問題に加えて、行間を読み取る、作者の意図やメッセージを読み取る、各自の経験や知識と照らし合わせて意見交換を行う、といった活動を行う。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
聞く・観ることによる解釈	コミュ	協働	整理	4年 Basic	コマーシャルや映画の予告の動画を観て情報を得たり、内容を解釈したり、作品のメッセージや使われている技法を分析したりする。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
インタビュー	コミュ	協働	整理	4年 Core	各レッスンの内容についてサマリーを伝えるとともに、その内容についての意見を述べる
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
精読・文法・単語・発音・サマリー	コミュ	協働	整理	4年 Core	教科書の内容を読み取り、文法や語彙の使い方を学ぶ。 その後、自分なりに内容を要約し、発表する。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
ピアリーディング・サマリー	コミュ	協働	整理	4年 EE Core	二つのグループを作り、個人だけの力では読むことが困難な文章を前半のみを読むグループと、後半のみを読むグループに分かれる。辞書や教員の助言を参考にしつつ、グループ内で言葉やイディオムの意味・文法などを考えながら読解し、要約する。もう一つのグループにサマリーを伝え、全ての内容についての問題に答える。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
ディスカッション・プレゼンテーション	コミュ	協働	整理	4年 EE Core	各レッスンのテーマについて調査をし、ワークシートを使ってグループで様々な問題点についてディスカッションをした後、ビジュアルエイドと共に声量、発音、アイコンタクトなどに注意しながら個人で発表をする。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
聞く・見る・読むことによる解釈・サマリー・インプロンプトスピーチ・エッセー	コミュ	協働	整理	5年 コミュニケーション英語	様々な媒体や内容の映像・会話・講義・記事等の一部を限られた回数・時間の中で理解し、内容理解の問題を解いたり、内容を簡潔に要約した上で自分自身の意見をエッセイやショートスピーチのフォーマットで述べる。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		

リサーチ& プレゼン テーション	コミュ	協働	整理	5年 コミュニケー ション英語	少数言語の消滅、保護に関する文章を読むこ とからスタートし、発展学習として リサーチ&プレゼンテーションを行う。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
ディスカッ ション・クリ ティカルリー ディング	コミュ	協働	整理	5年 コミュニケー ション英語	コミュニケーションを「アイデンティティ と知覚」の視点から学習をした後、シチュエー ションや作品から読み取れる内容を Discussion Question を基に話し合う。ファシ リテーターも生徒が行う。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
プレゼンテ ーション・ ディスカッ ション	コミュ	協働	整理	5年 English Expressions	生命倫理の各分野についてグループでリサー チし、それぞれが先生となって 45 分間の授業 を行う。授業の最後には生徒自身が考えた Discussion Question で Discussion をファシ リテートする。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
クリエイティ ブライティン グ・ピアリー ディング	コミュ	協働	整理	5年 English Expressions	美しい小説や映画の文章がどのように書かれ ているのかを学び、「いかに美しく書くか」に ついて考える。また、実際に自分自身で書いた ものを互いに読みあう。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
文法、単語、 発音クリティ カルリーディ ング、ディス カッション	コミュ	協働	整理	5年 DP English B	文化多様性、グローバルイシューズ、科学とテ クノロジーといったトピックに基づいて様々 な現代社会の問題について学び、自分の考え を伝えることを目的とする。また実社会で使 える英語力目指して、様々なテキスト形態を 学ぶ。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
聞くこと による解釈	コミュ	協働	整理	6年 コミュニケー ション英語	長文の内容に関係する現代的諸問題について 教員が英語で講義を行い、その内容の理解度 を図る。また、その内容に関して自分の考えを 述べる。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
プレゼンテ ーション・ディ スカッション	コミュ	協働	整理	6年 コミュニケー ション英語	グループに分かれ、各グループの興味・関心の あるテーマについて調べ、クラスに 40 分間の 授業をデザインし、実行する。必ずビデオ・新 聞記事などの資料を提示し、内容を理解する ために必要なボキャブラリーやディスカッ ションを盛り込むことを条件に含んでいる。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
詩・小説の 読解	コミュ	協働	整理	6年 コミュニケー ション英語	いくつかの小説を読むことで Political Satire についての理解を深め、現実社会へどのよう に転移できるか考える。互いの理解や意見を ディスカッションや文章で共有する。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
ディスカッ ション・ 小説の読解	コミュ	協働	整理	6年 English Expressions	Dystopia を扱う小説をいくつか読み、現実社 会の Dystopia についても学んだ上で、Perfect Society の在り方について議論する。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		

データ アナリシス	コミュ	協働	整理	6年 English Expressions	データを分析し、その内容について英語で的確に論じる手法や語彙について学ぶ。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
エッセー・プルーフ・クリティカルリーディング	コミュ	協働	整理	6年 English Expressions	「Writing Application Essays」これまでの自分について自己分析をしたり、様々なサンプルエッセーの添削を行ったりすることを通じて自分自身の Application Essay を作成する。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
プリペアド・スピーチ・データアナリシス	コミュ	協働	整理	6年 English Expressions	スティーブ・ジョブズ、バラク・オバマ、キング牧師などの有名なスピーチを聞いたり、実際の原稿や How-to の記事などを読み、良いスピーチとはどのようなものなのかを分析する。その分析を活用し、自らスピーチを行う。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		
詩・小説の読解、インタビュー、クリエイティブライティング	コミュ	協働	整理	6年 DP English B	これまで学んできた現代社会の事象に関する自分の考えを理論立てて伝えることを目指す。またあらゆる種類のテキストを読んだり、書いたりできる訓練を積む。
	情動	振返	情報		
	対峙	批判	創造		

2. 生徒の外国語科学習内容・活動実践に対する意識調査の結果

(2018年7月アンケート実施 第2学年～第6学年 250名 回答)

以下のアンケートは本年度1学期の英語学習がすべて終了した後にオンラインで実施したものである。2年生から6年生を対象に協力を求めたところ、2年生61名、3年生50名、4年生35名、5年生51名、6年生53名、計250名の回答を得ることができた。4年生を除けば、ほぼ各学年半数の生徒がオンラインの英語の授業に関する意識調査に回答を寄せてくれた。また、250名のうち、Advancedクラスの授業を受けている(5・6年生は4年次の受講クラスを選択するよう指示)生徒は91名、Core/Basicクラスの授業を受けている生徒は159名という内訳である。

なお、アンケートにおける質問項目は以下の通り【表Ⅱ】である。昨年度試験的に4年生(高校1年生)のコミュニケーション英語ⅠのBasicクラスのうち1クラス19名に対してのオンラインアンケート項目と同一のものとした。ただし、授業内の活動を一部整理し、昨年度の26項目を25項目に変更した。

【表Ⅱ】外国語科学習内容/活用実践に対する意識調査の質問項目

- | |
|--|
| <p>Q1. 英語の授業内の活動を通じて、入学後一番伸びたと実感するATLスキルはどれですか。1つ選んでください。</p> <p>①コミュニケーション ②社会性 ③自己管理 ④リサーチ ⑤思考</p> <p>Q2. 以下(Q4で提示されている活動をさす)の活動を通してどのATLスキルが伸びましたか。それぞれの活動において、10個のATLスキルからあてはまるすべてのスキルを選んでください。</p> <p>①コミュニケーションスキル ②協働スキル ③整理整頓する力</p> |
|--|

- ④情動スキル ⑤振り返りスキル ⑥情報リテラシースキル
 ⑦メディアリテラシースキル ⑧批判的思考スキル ⑨創造的思考スキル
 ⑩転移スキル ⑪伸びていない ⑫体験していない

Q3. 以下（Q4で提示されている活動をさす）の活動を何年生でしたのか、あてはまる学年全てを選んでください。

- ①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生 ⑤体験していない

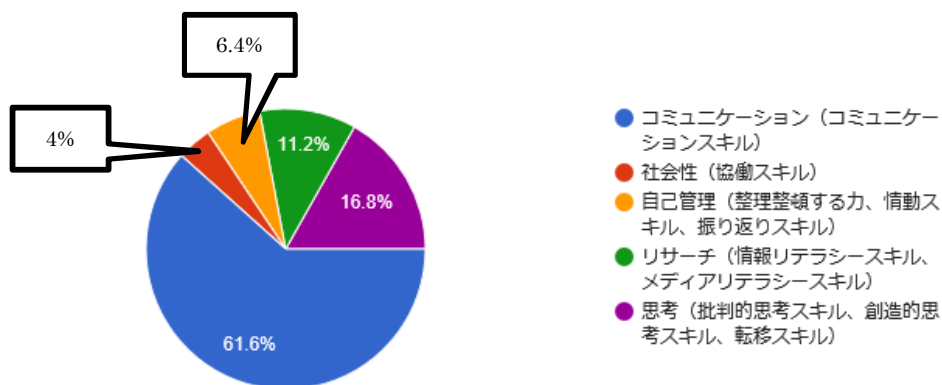
Q4. ATLスキルが一番伸びたと思う授業内の活動を一つ選んでください。

1. 聞く・観る・読むことによる解釈
2. ピア（ペアやグループでやる）リスニング
3. ピア（ペアやグループでやる）リーディング
4. ピア（ペアやグループでやる）レビュー（振り返り）
5. メモ・ノート取り
6. ニュース・映画・番組の解釈・分析
7. サマリー（要約）
8. 精読
9. データアナリシス（分析）
10. ジャーナル
11. エッセー
12. レポート
13. プルーフリーディング（校正・修正）
14. クリエイティブ（創造的）ライティング
15. クリティカル（批判的）リーディング
16. 詩・小説の読解
17. ディスカッション
18. プレゼンテーション
19. インタビュー
20. ディベート
21. インプロンプト・スピーチ（即興で話す）
22. プリペアド・スピーチ（原稿あり）
23. スキット
24. レビュー
25. 文法・単語・発音

Q5. その活動（Q4で提示されている活動をさす）は何年生でしたか。

- ①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生 ⑤体験していない

Q6. その活動（Q4で提示されている活動をさす）の内容について具体例を交えて説明してください。（自由記述）



【図Ⅱ】

【表Ⅱ】Q1の質問に対して【図Ⅱ】のような結果が得られた。5つのATLスキルのうち、6割以上の生徒が一番伸びたと実感しているのは、コミュニケーションスキルである。昨年度のアンケートの結果同様、Q4の生徒自身が「ATLスキルが一番伸びたと思う授業内の活動」と照合してみると、18プレゼンテーション（20%）17ディスカッション（11.6%）である。生徒たちは授業で取り上げた内容に関するグループや個人の発表活動や話し合いを通して、一方通行ではない、やり取りを伴うコミュニケーションスキルが養われていると感じていることがわかる。また、今年度の公開研究会で取り上げた思考スキル（「批判的思考スキル」「転移スキル」）

を挙げた生徒も 42 名 (16.8%) おり、そのうち、11 エッセー、13 プルーフリーディング (校正・修正)、15 クリティカル (批判的) リーディング、20 ディベート、24 レビューなどの授業内活動を通して生徒は「批判的思考スキル」が伸びたと感じている。「転移スキル」が伸びた活動として約 30 名の生徒が、5 メモ・ノート取り、18 プレゼンテーションを挙げている。

【図Ⅱ】の結果をみると、自己管理スキルが一番伸びたと実感している生徒は全体の 6.4% にすぎないが、その一方で Q2 の「それぞれの活動でどのスキルが伸びたかを当てはまるものすべてを挙げよ」という調査においては、自己管理スキルの中でも、特に「整理整頓するスキル」はどの活動でも 10 のスキルのうち上位を占めている。【表Ⅲ】は「整理整頓するスキル」が伸びたと考えている生徒の人数と 10 のスキルの中の順位に焦点をあてて整理したものである。

【表Ⅲ】「整理整頓するスキル」

授業内の活動	伸びたと考えた生徒数	順位
1. 聞く・観る・読むことによる解釈	97 名	2
2. ピア (ペアやグループでやる) リスニング	45 名	3
3. ピア (ペアやグループでやる) リーディング	70 名	3
4. ピア (ペアやグループでやる) レビュー (振り返り)	51 名	4
5. メモ・ノート取り	172 名	1
6. ニュース・映画・番組の解釈・分析	85 名	4
7. サマリー (要約)	169 名	1
8. 精読	75 名	1
9. データアナリシス (分析)	102 名	1
10. ジャーナル	111 名	1
11. エッセー	105 名	1
12. レポート	97 名	1
13. プルーフリーディング (校正・修正)	88 名	1
14. クリエイティブ (創造的) ライティング	53 名	3
15. クリティカル (批判的) リーディング	54 名	3
16. 詩・小説の読解	83 名	1
17. ディスカッション	79 名	4
18. プレゼンテーション	93 名	2
19. インタビュー	61 名	2
20. ディベート	68 名	4
21. インプロンプト・スピーチ (即興で話す)	99 名	2
22. プリペアード・スピーチ (原稿あり)	110 名	2
23. スキット	37 名	5
24. レビュー	57 名	3
25. 文法・単語・発音	96 名	2

授業内の活動は、【表Ⅰ】からもわかるように、学年ごと、あるいは Advanced クラスや Core /Basic クラスごとで、進度に応じて実施される。また、実施される時期なども当然異なる。従って、アンケートに答えたすべての生徒がそれぞれの活動を体験したわけではないので「体験していない」という回答も含めた順位として、【表Ⅲ】では表記している。「整理整頓するスキル」

が伸びたと感じている授業内の活動として、多くの生徒が挙げているのは、5. メモ・ノート取り、7. サマリー（要約）、8. 精読、9. データアナリシス（分析）、10. ジャーナル、11. エッセー、12. レポート、13. プルーフリーディング（校正・修正）、16. 詩・小説の読解である。

【表Ⅱ】Q6の「活動の内容について具体例を交えて説明せよ」に、「整理整頓するスキル」に関わると判断できる次のような生徒の自由記述が寄せられている。一部を紹介する。

- ・長期間に渡って一つのエッセーを書き、各段階で自分と他人が書いたものを読み、修正を加えたりアイデアを出し合ったりした。
- ・授業で習ったことを自分で一度まとめることで理解を深めると共に、英語力の表現が磨かれた。また、うまい人の例が配られて、より勉強になりよかった。
- ・ニュースについてのまとめをしたり要約してグループで共有したりした。
- ・先生がスライドを回すのが早すぎて、最初はノート取りが追いつかなかったけれど、慣れてきたら、早く書いたり、書くものの優先順位をその場で決めることができたので、瞬発力や、ノート整理力がかなり上がったと思う。これは、今、英語だけではなく、他の教科にもとっても役立っている。
- ・効率よく相手に伝え、わかりやすくかつ観客を引きつけるスライドの作り方やプレゼンテーションの方法を学び、他の授業にも非常に役立った。
- ・自分たち各自で決めたトピックについてエッセーを書く際に段落を書くごとにグループ内で共有し、お互いのパラグラフの改善点や修正点を教えあうことでより良いエッセーを書くことができた。その上、エッセーや論文などをプルーフリードする大切さ、そして他者からの意見がどれだけ改善するにあたって大切かということ学ぶことができた。
- ・True story の学習で、一つの物語を2分間にまとめて話すという学習を行った。それによって、与えられた情報を簡潔にまとめる力を上げることができたと思う。
- ・3年の1学期のリスニングテストでニュース番組を見て質問に答えるというテストがありました。スピードの早い英語から読み取ることが出来る内容を自分の中で整理して解釈するのが大変でした。しかし、頭の中で情報を整理するといううえではとても伸びたと感じました。
- ・私は今学期、様々なプレゼンテーションを英語でやってきて整理整頓する力がとても伸びたと思います。1、2年生の時は少し主旨からそれてしまったり情報量が多くてなかなかまとめられていなかったりしました。しかし今までの経験を生かし、今回はスライドも、プレゼンテーションでも、整頓された形で発表することができました。また、より分かりやすいプレゼンテーションができたと思います。

時間と課題を効果的に管理する「整理整頓するスキル」の枠組みとして、第6回 TGUSS 公開研究会の「学びの地図 第6回公開研 Ver.」では、「短期的課題や長期的課題に向けて計画を立てる」「総括的評価（試験や発表）のための準備計画を作成する」「情報ファイル/ノートを整理された状態に保つ」「複雑な情報を整理するために適切な方法を用いる」などが挙げられている。「整理整頓するスキル」は【表Ⅲ】の順位が示しているように、すべての授業内の活動と密接な関わりがある。それはつまり「総括的評価（試験や発表）のための準備計画を作成する」「複雑な情報を整理するために適切な方法を用いる」スキルは、すべての授業内の活動の根幹

となっているとも言える。また、生徒が述べた具体例と照らし合わせても、「整理整頓するスキル」は英語の授業のみならず、他教科の授業においても役立っていると考えられる。

前述したように、5つのATLスキルのうち、6割以上の生徒が一番伸びたと実感しているのは、コミュニケーションスキルであると答えている。しかし、生徒自身が「ATLスキルが一番伸びたと思う授業内の活動」として挙げている18プレゼンテーション、17ディスカッションは「短期的課題や長期的課題に向けて計画を立てる」スキル、あるいは「総括的評価（試験や発表）のための準備計画を作成する」スキル、「情報ファイル/ノートを整理された状態に保つ」スキル「複雑な情報を整理するために適切な方法を用いる」スキルなくしては成り立たない。つまり「整理整頓するスキル」があつてこそ、「コミュニケーションスキル」がより伸長するのである。授業内のそれぞれの活動に対して、「コミュニケーションスキル」が伸びたと考えている生徒の人数と10のスキルの中の順位に焦点をあてて整理したものが、次の【表IV】である。

【表IV】「コミュニケーションスキル」

授業内の活動	伸びたと考えた生徒数	順位
1. 聞く・観る・読むことによる解釈	116名	1
2. ピア（ペアやグループでやる）リスニング	133名	2
3. ピア（ペアやグループでやる）リーディング	140名	2
4. ピア（ペアやグループでやる）レビュー（振り返り）	120名	2
5. メモ・ノート取り	37名	4
6. ニュース・映画・番組の解釈・分析	64名	5
7. サマリー（要約）	58名	4
8. 精読	58名	2
9. データアナリシス（分析）	37名	5
10. ジャーナル	70名	3
11. エッセー	69名	4
12. レポート	56名	8
13. プルーフリーディング（校正・修正）	48名	5
14. クリエイティブ（創造的）ライティング	64名	2
15. クリティカル（批判的）リーディング	63名	2
16. 詩・小説の読解	65名	4
17. ディスカッション	177名	1
18. プレゼンテーション	181名	1
19. インタビュー	168名	1
20. ディベート	175名	1
21. インプロンプト・スピーチ（即興で話す）	172名	1
22. プリペアド・スピーチ（原稿あり）	139名	1
23. スキット	88名	1
24. レビュー	55名	4
25. 文法・単語・発音	121名	1

外国語科は長年に渡り、特に「Communicators（コミュニケーションができる人）」の資質・能力に注目し、授業内で様々な活動を組み入れて指導してきた。特に17. ディスカッションは、

本校開校当時から、5年次までに英語でのディスカッションスキルを育成することを目標として掲げていることもあり、1年次からそのスキル育成を目指し、授業内で多くの時間を18. プレゼンテーション、21. インプロンプト・スピーチ（即興で話す）、22. プリペアド・スピーチ（原稿あり）といった話す力を伸ばすことを目指した活動に費やしてきた。【図Ⅱ】及び【表Ⅳ】が示すように、これらの授業内の活動を通して6割以上の生徒が「コミュニケーションスキル」を伸ばすことができたと答えているのは、これまでの指導の成果が出ていると考えられる。【表Ⅱ】Q6の「活動の内容について具体例を交えて説明せよ」という質問に対する、「コミュニケーションスキル」に関わると判断できる生徒の自由記述の一部を以下で紹介する。

- ・毎年行っているが、3年の頃から、プレゼンテーションをより人にどう伝えるか考えるようになり、コミュニケーション力が伸びた。
- ・みんなで考えたテーマについて、構成を考え、一人ずつ意見を言っていく。（決められた時間の中で）
- ・あるトピックについてその場で意見を出し合いディスカッションをした。
- ・授業で入学式のスピーチをテーマに1分スピーチを行いました。
- ・情報を自分なりに解釈し、プレゼンテーションのスライドや、原稿を考えなければならず、小学校までは英語で一切行ってこなかったため、そのコミュニケーションスキルが一番伸びたと思う。具体的に言えば、LEの授業で科学に関するテーマを自分で指定し、プレゼンテーションをする授業では、難しい言葉も初めて聞いた人に分かりやすいように工夫したり、質疑応答するときにコミュニケーションスキルが特に伸びたように感じる。
- ・1年の頃から、テーマを与えられて自由に話す活動をたくさんやった。テーマは、Cool Japan、one worldなどがあったと思う。
- ・先生となって1時間みんなの前で授業をする、という授業が印象に残っています。グループでたくさん打ち合わせや練習をして楽しかったです。
- ・自分の経験を踏まえて、自分が持つ考えを自分の言葉で表現したことが、自分のコミュニケーション力につながった。
- ・みんなでリーディングすることにより、考えることがみんな一緒になるようになるし、その文章の問いについて考えるときにもコミュニケーション能力を使うから。
- ・自分の意見をいうだけでなく、相手の意見を聞いて質問したいことを考え、実際に話すことで、相手との会話が成立し、コミュニケーションができた。
- ・ディベートでは、自分の意見であるかどうかにかかわらず、題材をもらった後二つのグループに分かれて、その立場から議論することが求められた。相手が考えないことや、相手に対する反駁などを考えながら活動を行った。
- ・個人だけでなく、グループでプレゼンなどを通して、人の前で英語を話す自信にもつながり、プレゼンまでつながる過程でも学ぶことが多かった。例えば、Chapterの中から自分でresearch questionを考え、それについて独自に調査を行うという授業においては、調査を行う上でのメディアの活用法や、どのようにプレゼンを構成することが効果的に人に伝わることになるのかなどを考えられた。本番も、英語を人前で話す練習になった。

- ・先生から配られた単語などのリーディングシートを読むことです。相手が間違っていたら注意してあげたりしたのでコミュニケーションスキル上がりました。
- ・メディアの偏見に対して、自分の思っている意見を自分のボキャブラリーの中で説明することが、自分のコミュニケーションスキルの向上につながりました。
- ・自分がリサーチしたトピックについてプレゼンをする際に、どのようにしたらより正確に伝えることができるのか、そのトピックを印象深いものにできるのかを考えました。この考えるプロセスを踏むことによって、より円滑なコミュニケーションとは何か、考えることができ、ATLスキルとして伸ばすことができたと思います。

与えられたテーマで「自由に話す活動」をプレゼンテーション、ディスカッション、インプロンプトスピーチ等、教師によって多様に、意図的にデザインされた形式で、繰り返し各学年で活動したことが、コミュニケーションスキルの伸長につながったと考えている生徒が多いことが、生徒の自由記述からも読み取れる。「よりわかりやすく発表するためにはどうするか」を多面的に自分で考え、それを実際の発表活動につなげていくまでの過程そのものこそが、実はコミュニケーションスキルを伸ばす鍵であることに生徒自身が気づき、意識的に、主体的に取り組むことができたときに、コミュニケーションスキルは一層伸びるのかもしれない。

昨年度、試験的アンケートを実施した際、授業での活動内容の教師、生徒間で確認が事前に十分にされていなかったため、活動内容の共通理解が足りず、項目によっては教師側の認識に反して「体験していない」と答えた生徒が多かったという問題があった。今回の調査ではその反省を活かし、事前にアンケートの説明書を用意し、それぞれの活動内容はどのようなものを指すのかを明らかにして実施した。なお、今回アンケートに追記した活動内容説明は以下の通りである。

1. 聞く・観る・読むことによる解釈

ビデオや録音を観たり聞いたりした、もしくは何かの文章やグラフ・図などを読んだり見た後に、その内容について問題に答える活動

2. ピアリスニング

グループやペアで何かを聞いた後問題などに答える活動

3. ピアリーディング

グループやペアで何かを読んだ後問題などに答える活動

4. ピアレビュー

グループやペアで何かの活動の後に振り返りを行ったり、文章の校正などを行う活動

5. メモ・ノートとり

何かを読む・聞く・観ながら必要な情報をノートやメモに書きとる活動

6. ニュース・映画・番組の解釈・分析

上記のいずれかを見た上で、その作者の意図や、その作品が伝えようとしている情報やメッセージ、様々な解釈などについて考える活動

7. サマリー

ビデオや録音を観たり聞いたりした、もしくは何かの文章やグラフ・図などを読んだり見た後に、特に重要な部分などを意識しながら内容を簡潔にまとめる活動

8. 精読

文章を細かい部分にまで注意しながら丁寧に読む活動

9. データアナリシス

グラフ・図・インフォグラフィック等のデータを読み、その内容について考えたり結論を出したりする活動

10. ジャーナル

日々の出来事や、授業で自分が思ったこと・感じたことなどについて定期的に書く活動

11. エッセー

何かの内容について自分の考えや意見などを根拠や例を挙げながら書く活動

12. レポート

何かのテーマについて調査し、調査内容をまとめてわかりやすく書く活動

13. プルーフリーディング

ジャーナル・エッセー・レポートなど、既にかかれてある作品を再度読み、内容を確認したり、より良くなるよう添削をし、直していく活動（個人でもグループでも可）

14. クリエイティブライティング

創造性 (Creativity, Imagination) を働かせ、フィクションや逸話を書く活動

15. クリティカルリーディング

読んでいる内容をそのまま理解するのではなく、情報を時には疑ったり、確認などをし批判的に読む活動

16. 詩・小説の読解

詩や小説を読み、その内容について考えたり理解する活動

17. ディスカッション

何かのテーマについて複数名で話し合う活動

18. プレゼンテーション

何かのテーマについて複数名の前で発表をする活動（個人でもグループでも可）

19. インタビュー

生徒間・もしくは教員と生徒の間でインタビューをする活動

20. ディベート

複数の答えがあるテーマについて、どちらかの側に立ち複数名で討論する活動

21. インプロンプトスピーチ

何かのテーマについてとっさにその場で内容を考え、意見を発表する活動

22. プリペアドスピーチ

何かのテーマについて台本・原稿などを準備し、その内容に沿って意見を発表する活動

23. スキット

役を決め、その役になりきり演技をし、それを発表する活動（個人でもグループでも可）

24. レビュー

なにかの作品などを振り返り、批判をしたり、自分の意見などを述べる活動

25. 文法・単語・発音

文法・単語 (Vocabulary) ・発音について学んだり、それを覚えたりする活動（練習・テストなども含む）

2年生から6年生の全生徒を対象とした一斉アンケート調査は今年度が初めてであり、今回は協力を募るという形で、一学期末から夏休みにかけて実施した。回答はあくまでも任意であり、各学年約半数の生徒が協力してくれたことは喜ばしい。しかし、その一方で、英語の授業に関心がある生徒だけが回答したのではないかという懸念も払拭しきれない。来年度以降、生徒の実態や意識をきちんと把握するためには、今年度よりも多くの生徒の回答を得て、より正確なデータを入手する必要がある。アンケートの実施時期、及びその依頼の仕方なども検討しなくてはならない。

本稿では、外国語科の「学びの地図 第6回公開研 Ver.」を紹介すると共に、授業内で行われている様々な活動が、「学び方を学ぶ」スキルであるATLスキルのどの部分の伸長と関わりがあるかということ、生徒へのアンケートを通じて推し量った。教員側がATLスキルを意識しながらデザインした授業内の活動は、生徒のATLスキルの伸長にきちんとつながっているのかを、引き続き検証するべく、今後も継続的に生徒の意識を調査していく予定である。そして、その結果を、教員と生徒が共通の目標を持つ授業づくりに有効に役立てていきたいと考える。

参考文献

『平成29(2017)年度TGUISS授業研究会』(2017年11月24日発行)

『平成28(2016)年度東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要』(平成28(2016)年3月)発行)

『平成29(2017)年度東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要』(平成29(2017)年3月)発行)

『平成30(2018)年度第6回TGUISS公開研究会』(2018年6月23日発行)

An Approach to MYP Part 10: Approaches to Learning (ATL) Skills Acquired Through Various Activities

Abstract

At the Open Seminar on June 23th, 2018, we shared parts of our teaching practices to foster ATL skills (transfer / critical thinking skills). After the two open class meetings, we had an active discussion with the participants about these class meetings. This chapter includes the materials from the booklet published for this Open Seminar. In addition, the results and analysis of the questionnaire answered by the students (8th ~12th) are cited.